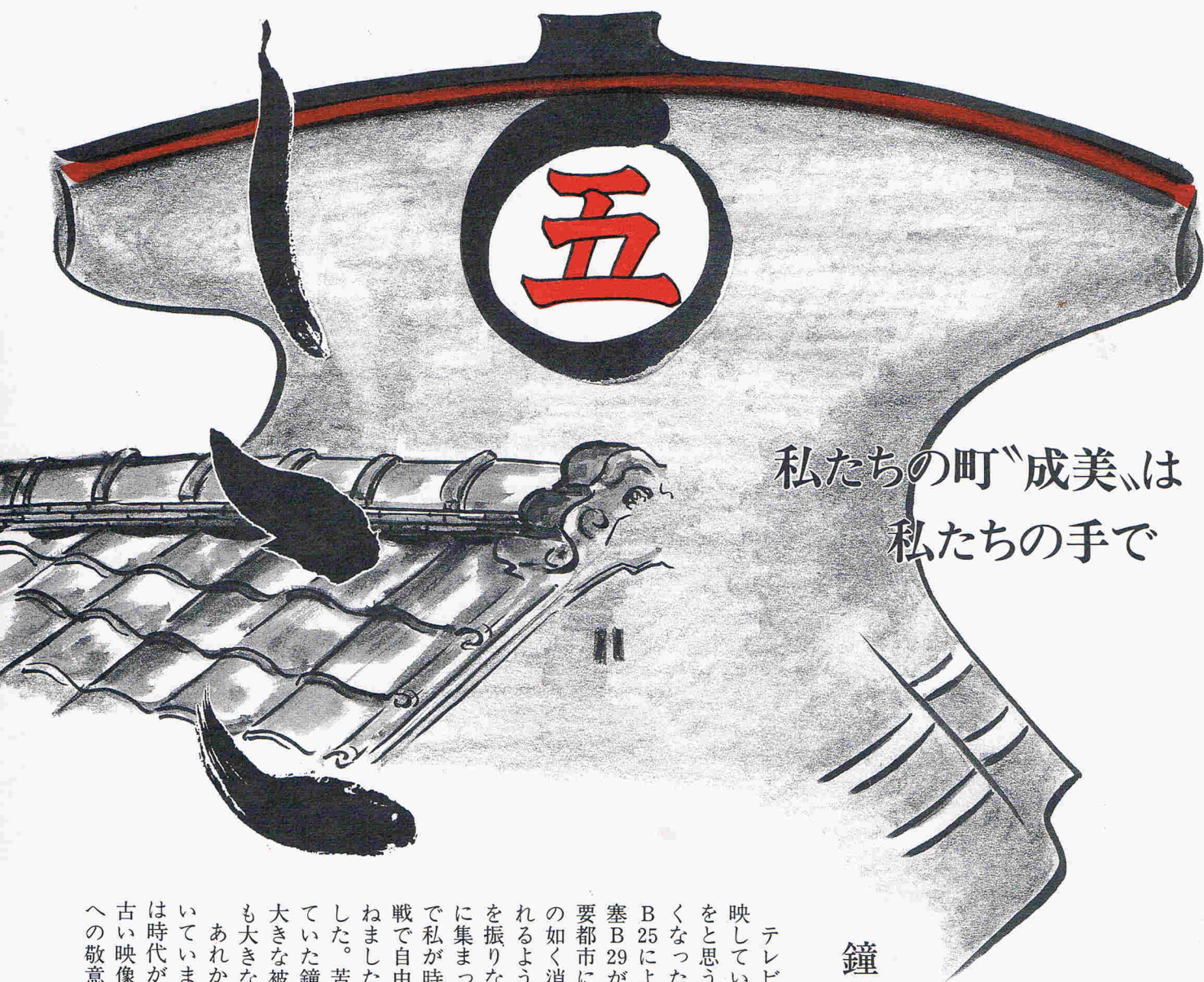


第2号

1993.12.30 高岡消防団第五分団発刊

印刷 株式会社モトヨシ美術印刷



私たちの町「成美」は
私たちの手で

鐘の思い出

成美校下連合自治会長 中山 清弘

テレビがドキュメント太平洋戦争(再)を放映しています。今さら日本軍の外地での報道をと思う方もあったと思います。敗戦の色濃くなった本土も悲惨な場面が始め昭和17年B25による東京空襲、更に昭和19年、空の要塞B29が之も東京に侵入、その後、日本の主要都市に対する攻撃を始めます。東京は毎日の如く消防の方の指導による防火訓練が行われるようになりました。下宿のおばさんが鐘を振りながら歩くと附近の方々が指定の場所に集まってきました。その鐘の音が大変きれいで私が時々磨いて玄関に置いていました。敗戦で自由の身となった私は真っ先に下宿を尋ねましたが予想通り辺りは焼土と化していました。苦心の末、家跡を発見し私が大切にしていた鐘を出す筈もないのに探し続けました。大きな被害、地域を守り通した消防の方々にも大きな犠牲があったようです。

あれから五十年、平和を謳歌する時代が続いています。消防にかかわる使命の重要性は時代が変わっても変わらないことを、いま、古い映像をみながら再確認し、消防団の皆様への敬意と感謝の念を新たにしています。

レイアウト 小嶋仁子

発刊に寄せて

高岡消防団長 山本 繁

平成3年度から当消防団で実施しております消防団活性化事業として、このたび第5分団が、広報誌「さしこ」を発刊されますことは、誠に意義深く喜びにたえません。

第5分団の管轄区域は事業所及び住宅等が密集し、火災拡大の危険性を含んだ地域であり、無火災地区を目指すには、ますます地域に根ざした消防団の積極的な広報活動が望まれているところであります。

このような時、広報誌「さしこ」が発刊されますことは、地区住民との交流を深め、火災のない町づくりを推進する大きな力になるものと確信いたしております。

最後に、第5分団がいよいよ大きく飛躍し、高岡消防団の先進役を努めることを期待いたしまして激励の言葉といたします。

発刊を祝して

高岡市消防長 瓶谷 哲哉

このたび、消防団活性化事業の一端として、高岡消防団第5分団が成美校下の皆様方に対し消防団活動のご理解とご協力を賜るため、広報誌「さしこ」を発刊される運びとなり心からお祝い申し上げます。

この広報誌が地域の皆様方に親しまれるとともに、第5分団の消防活動がより一層推進され、住みよい安全な成美校下の実現と明るい町づくりの新たな礎石となることを念じております。

終わりに、本紙の発刊に至る企画編集に尽力されました関係各位に対し、深く敬意を表するとともに、かならずや大きな実を結ぶことを期待しながら発刊のご挨拶とさせていただきます。

平成5年3月14日(日)

消防団員の志気の高揚、規律の保持、技術の向上を図り、地域に密着した消防団活動を行うよう訓練が展開された。

春の演習



初春の空の下、勇壮果敢に出初め式を行い、決意も新たに心を引き締めます。

平成5年1月7日(木)

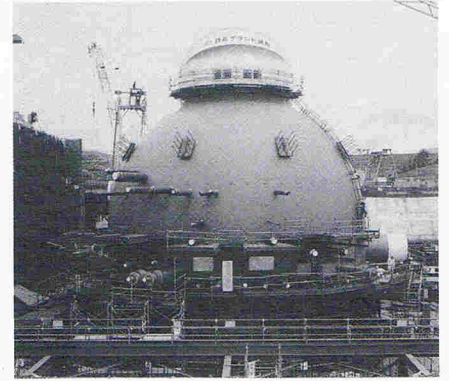
出初め式



平成5年1月17日(日)

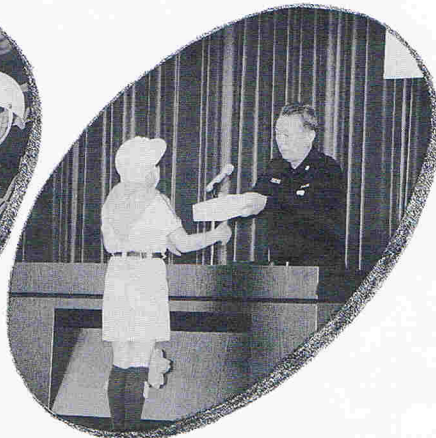
能登志賀原子力発電所内の消防施設及び防火対策について視察研修を行う。

研 修



BFC

- 昭和36年11月2日 成美少年消防クラブ結成。
- 昭和46年 全国少年消防クラブ県支部長表彰。
- 平成2年 全国火災予防研究発表大会県大会金賞。



小さい頃から防火、防災に対する意識を高めたいと願っています。

B	F	C	の	バ	ッ	ジ
5	年	逸	見	結	華	

五年生になってはじめてBFCのことを知りました。編成式でいただいたバッジをむねにつけた時、急に、BFCの一員になったんだな、という気持ちになりました。

いたずらをしている人を見つけても、もしもじしていたけど、BFCのバッジをつけていたら、火あそびをしている人に、はずかしがらずに注意できそうです。

無火災表彰

昨年の12月に、高岡市の無火災表彰、そして今年の3月には富山県の無火災表彰をいただくことができました。



第五分団 団員名簿 (平成五年)

氏名	自治会名
沙魚川 弘	地子木町
慶寺 長造	〃
鷺北 稔	〃
細呂木 勉	〃
東野 幸二	成美町2丁目
幸正 哲	〃
田中 誠	成美町1丁目
江渕 司郎	熊野町
加納 満	〃
山本 邦雄	〃
中山 孝史	弥生町
川田 右門	開発本町
橋本 米暁	〃
吉田 英喜	〃
二上 哲夫	油町
竹内 信善	大坪地子町
室谷 明雄	大坪3・4丁目
橋田 弘嗣	〃
鳥山 三伸	〃
上田 勝	木町
馬場 裕一	羽衣町
粟田 実	縄手町
高越 和則	縄手中町

五分団からの お知らせ!!

“防災の広場”

※ 平成5年9月5日“防災の広場”を行います。地域の防火、防災の意識の高揚を図ることを目的としています。是非、ご参加下さいますようお願い致します。



現在、23名の団員でがんばっていますが、もっとたくさんの方の入団を願っております。向野町、宝町、大町周辺の方の入団をお待ちしております。

災害時に備えての日頃の訓練、心構えが一番大切なのです。

編集後記

現在、様々な形で二十一世紀像が語られていますが、その基盤を揺がす災害への対応を忘れて未来都市の繁栄は語れません。二月の能登半島沖地震では、高岡でも震度「4」を記録しました。災害は必ずやってきます。

繁栄を謳歌する今こそ、郷土成美を次代に生きる子供たちに引き継ぐために、校下住民の皆様と真剣に防火・防災について考え、語り合いたいと思い、団員一同話し合って「さしこ」を発刊することとなりました。

しかし、消防団をとりまく環境は、団員の高齢化や、サラリーマン団員の増加、入団する若者の減少など大変厳しいものがあります。

これらを克服すべく、校下の皆様のご理解とご協力のもとに団員自身が自己研鑽して、火事を消すだけでなく防災・防火や事故救助、安全管理などいろいろな知識・技術を身につけそれを生かし、地域に役立つ消防団を目指し努力する覚悟です。

広報誌「さしこ」は年に二回発行で、第二号は十二月に予定しております。校下の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

団員 幸正 哲